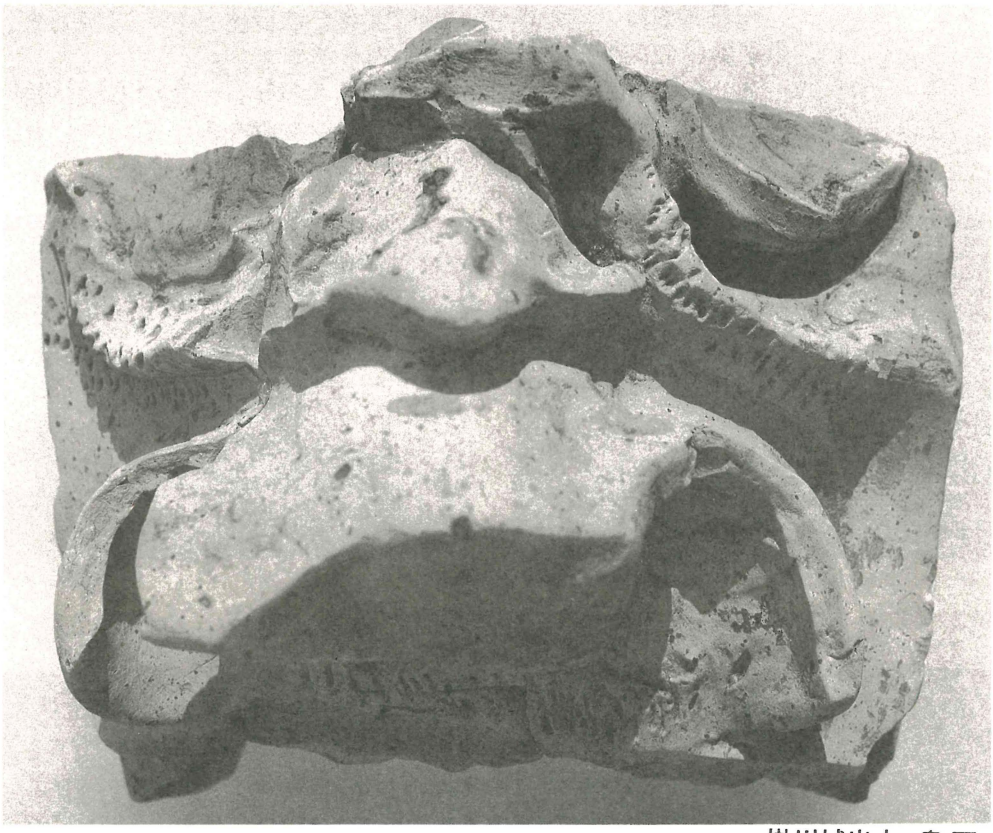
掛川市「考古の日」記念

出土文化財展

と　き：平成６年６月24日(金)～26日(日)
ところ：掛川市生涯学習センターギャラリー１階



掛川城出土　鬼瓦

１９９４

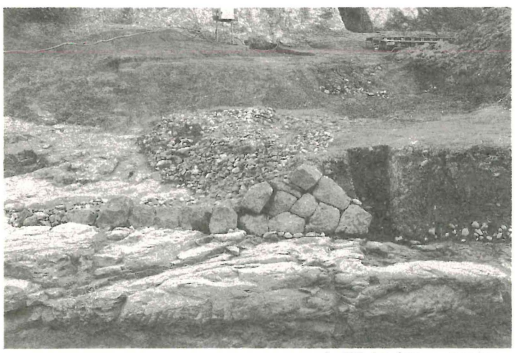
掛川市教育委員会

かけがわ じょうあと
掛川城跡

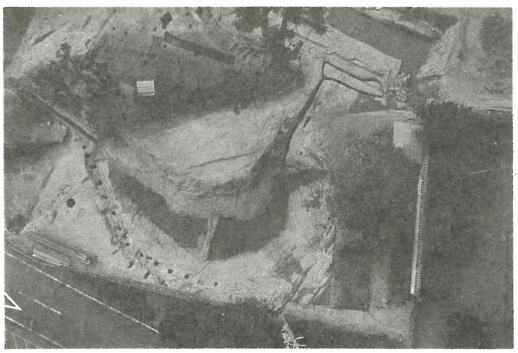
1、調　査　地　掛川 1,138-24ほか
2、調査の原因　掛川城公園整備に先立つ発掘調査
3、調査の面積　７，０００㎡
4、調査の期間　平成５年４月～平成６年３月
5、調査の内容　今年度の調査では、三日月堀、松尾池（内堀）、十露盤堀がその対象となりました。十露盤堀は、本丸門から北へ延びる水堀です。すべてを掘ることはできませんでしたが、トレンチ調査では堀はかなり広範囲に及ぶことがわかりました。堀の外側は不定形ですが、内部は幅広の畝によって仕切られた南北方向に長い箱堀が２本設けられていました。

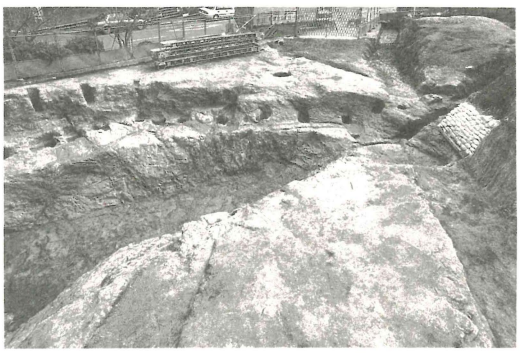
三日月堀は、本丸門の前面に配された三日月状の水堀です。堀の壁面は急勾配で、深さは８ｍありました。

３つの堀は、暗渠によって結ばれており、一定の水位に達すると松尾池（内堀）に流される水位調整機能をもっていました。

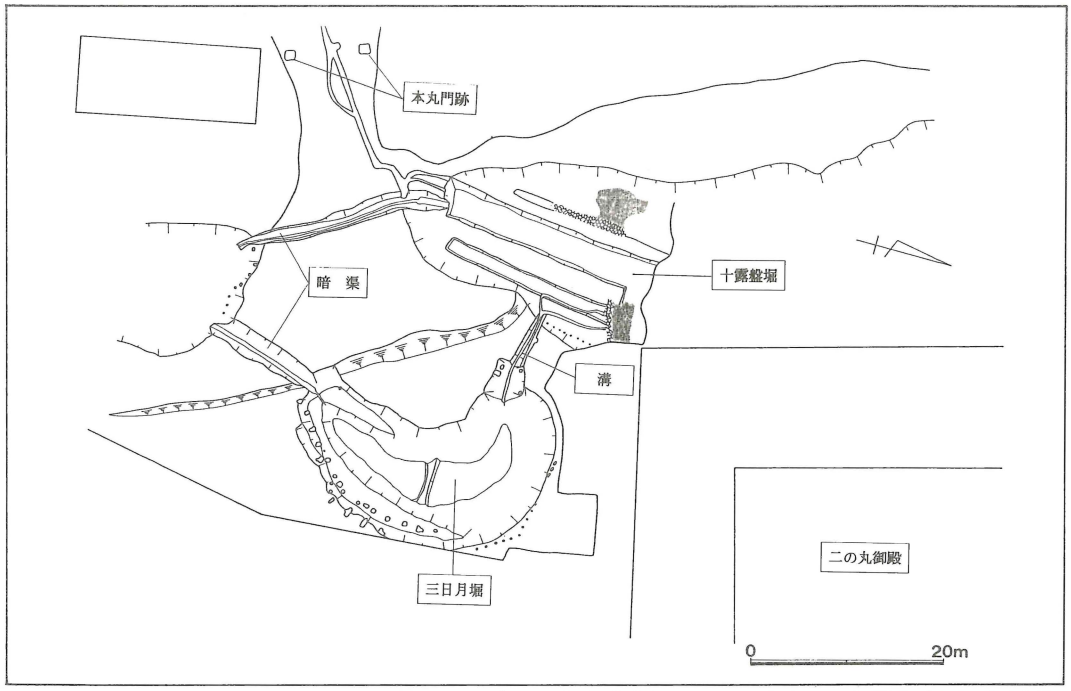

十露盤堀の石垣

暗渠の蓋石


三日月堀


三日月堀の柱穴列

松尾池（内堀）・三日月堀・十露盤堀



松尾池（内堀）・三日月堀・十露盤堀の実測図

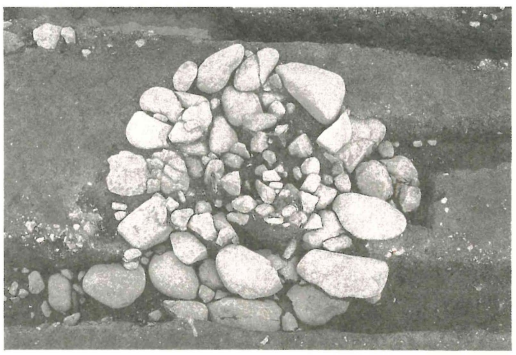
かけがわ じょうおお て もんあと
掛川城大手門跡

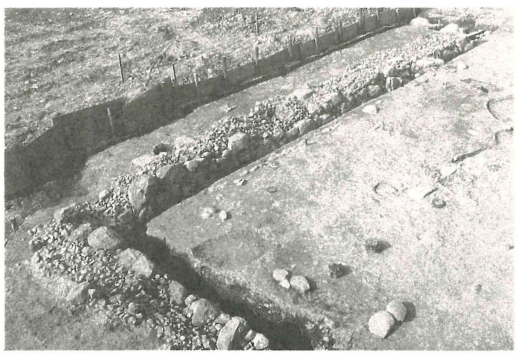
1、調　査　地　掛川1,135-3
2、調査の原因　掛川駅北土地区画整理事業に先立つ発掘調査
3、調査の面積　６９０㎡
4、調査の期間　平成５年４月～平成６年２月
5、調査の内容　前年度の調査結果も含めて、大手門の位置、規模、門を囲む土塀石垣を確認しました。

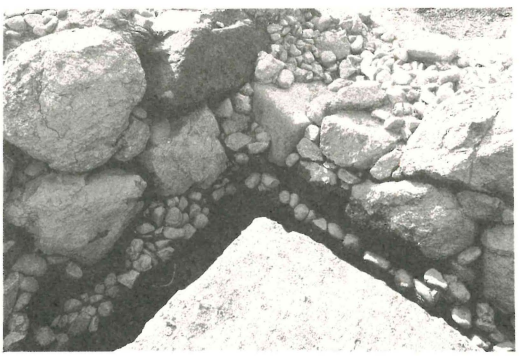
柱を支える石（礎石根固め石）の間隔から、間口７間（12,6m）、奥行き３間（ 5,4m）であることがわかりました。礎石根固め石は、柱の沈みを防ぐためのもので、地下に穴を掘り、石を数段積んでいました。

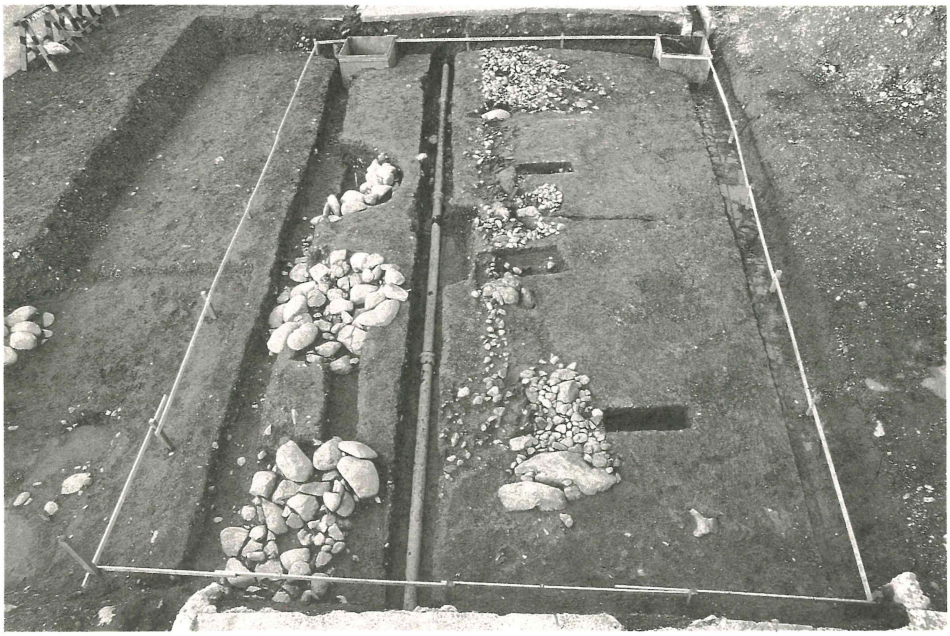
また、門の両側（東西）に確認された土塀石垣にも、石の沈下を防ぐために、胴木と呼ばれる木をいれるなど、構築の際の工夫がうかがえました。

礎石根固め石


礎石根固め石


土塀石垣と番所小屋跡


土塀石垣の胴木



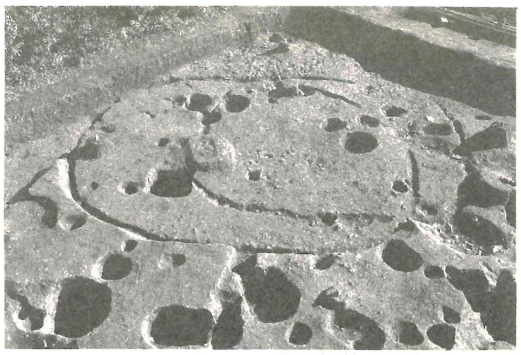
東側礎石根固め石

礎石根固め石と土塀石垣

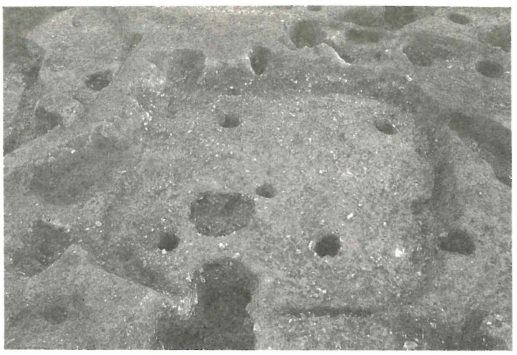
たか だ　い せき
高田遺跡

1、調　査　地　吉岡 1,296
2、調査の原因　茶園改植に先立つ発掘調査
3、調査の面積　１，４００㎡
4、調査の期間　平成５年８月～平成６年３月
5、調査の内容　調査では、縄文時代中期（約 4,000年前）の小穴、弥生時代後期～古墳時代前期（約 1,700～ 1,600年前）の竪穴住居跡４３軒掘立柱建物６棟を発見しました。

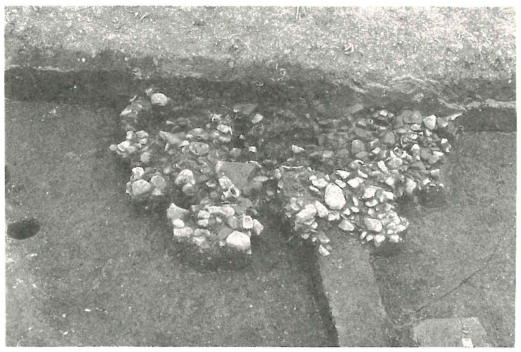
竪穴住居は５m四方の隅丸方形で、ほぼ中央に炉をもっていました。かなり密集して確認され、何度かの建て替えが行なわれていたようです。遺物は、当時の人々の生活用具であった壷、甕、高坏が数多く出土しました。



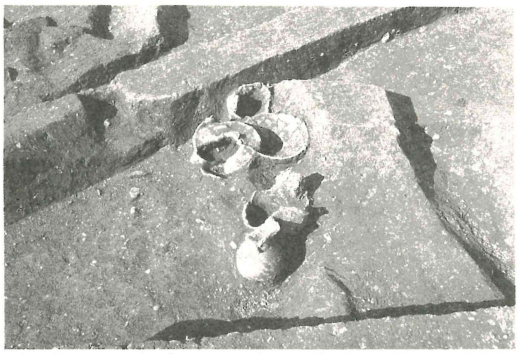
竪穴住居跡
（２軒重なりあっている）



竪穴住居跡



竪穴住居使用後、土器と石を捨てている



土壙から出土した弥生時代後期の土器

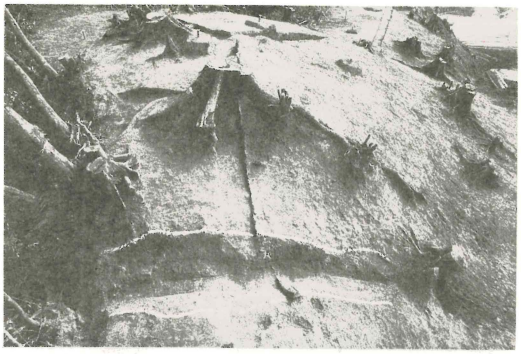
調査区の全景

古墳時代初頭の掘立柱建物

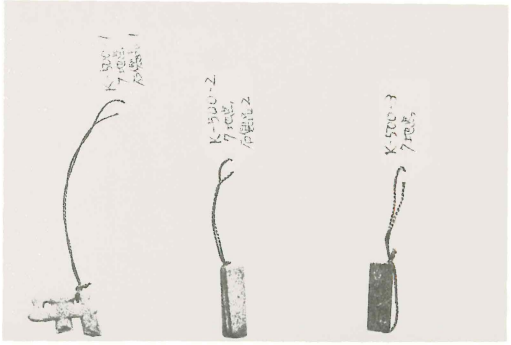
縄文時代中期の小穴

おおたに こ ふんぐん
大谷古墳群

1、調　査　地　千羽 1,290-2ほか
2、調査の原因　掛川市農協緑茶工場建設用地造成に先立つ発掘調査
3、調査の面積　６４０㎡
4、調査の期間　平成５年７月～８月
5、調査の内容　調査では、弥生時代後期～古墳時代初頭（約 1,700～ 1,600年前）の穴がひとつと、古墳時代の溝を山の裾に１本と尾根を切る形で１本の２本発見しました。
遺物は、管玉２点と土器の破片などが見つかりました。



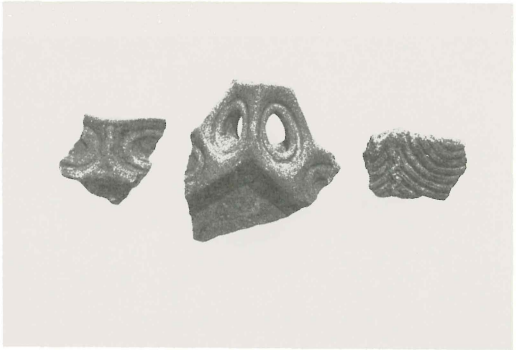
古墳時代の溝



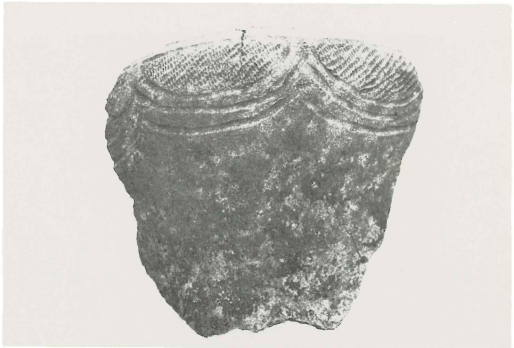
古墳時代の石製品

かき が　や
柿ケ谷遺跡

1、調　査　地　上西郷 4,208ほか
2、調査の原因　市道拡幅整備工事に先立つ発掘調査
3、調査の面積　６０㎡
4、調査の期間　平成６年１月
5、調査の内容　調査では、昔の人々が作った建物の跡などは発見されませんでした。しかし、出土した土器から遺跡が縄文時代中期（約 4,000年前）の村の跡であることがわかりました。



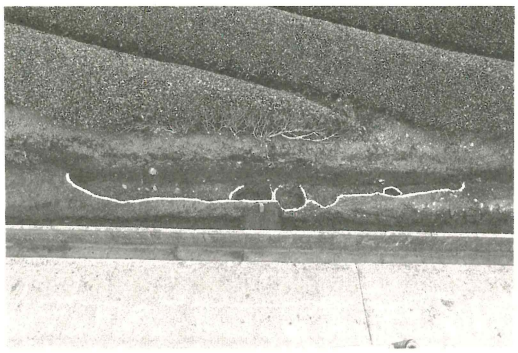
縄文土器

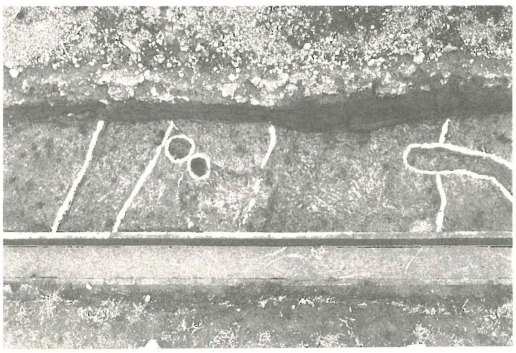


縄文土器

なかはら　　たかだうえのだん
中原遺跡・高田上ノ段遺跡

1、調　査　地　高田 1,032-1ほか
2、調査の原因　農道改良工事に先立つ発掘調査
3、調査の面積　５５６㎡
4、調査の期間　平成５年１２月
5、調査の内容　調査は、道路に沿って約１ｍの幅で細長く行ない、竪穴住居跡（時期不明）を２軒、溝状遺構２３本、小穴８６個、昔の赤道の跡５本を発見しました。


竪穴住居跡


昔の道の跡

下に遺跡がありませんか？

工事する前に確認してください。

現在、掛川市には９３０もの遺跡があり、県内一遺跡の多い市だと言われています。こうした遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと”とも言われ、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

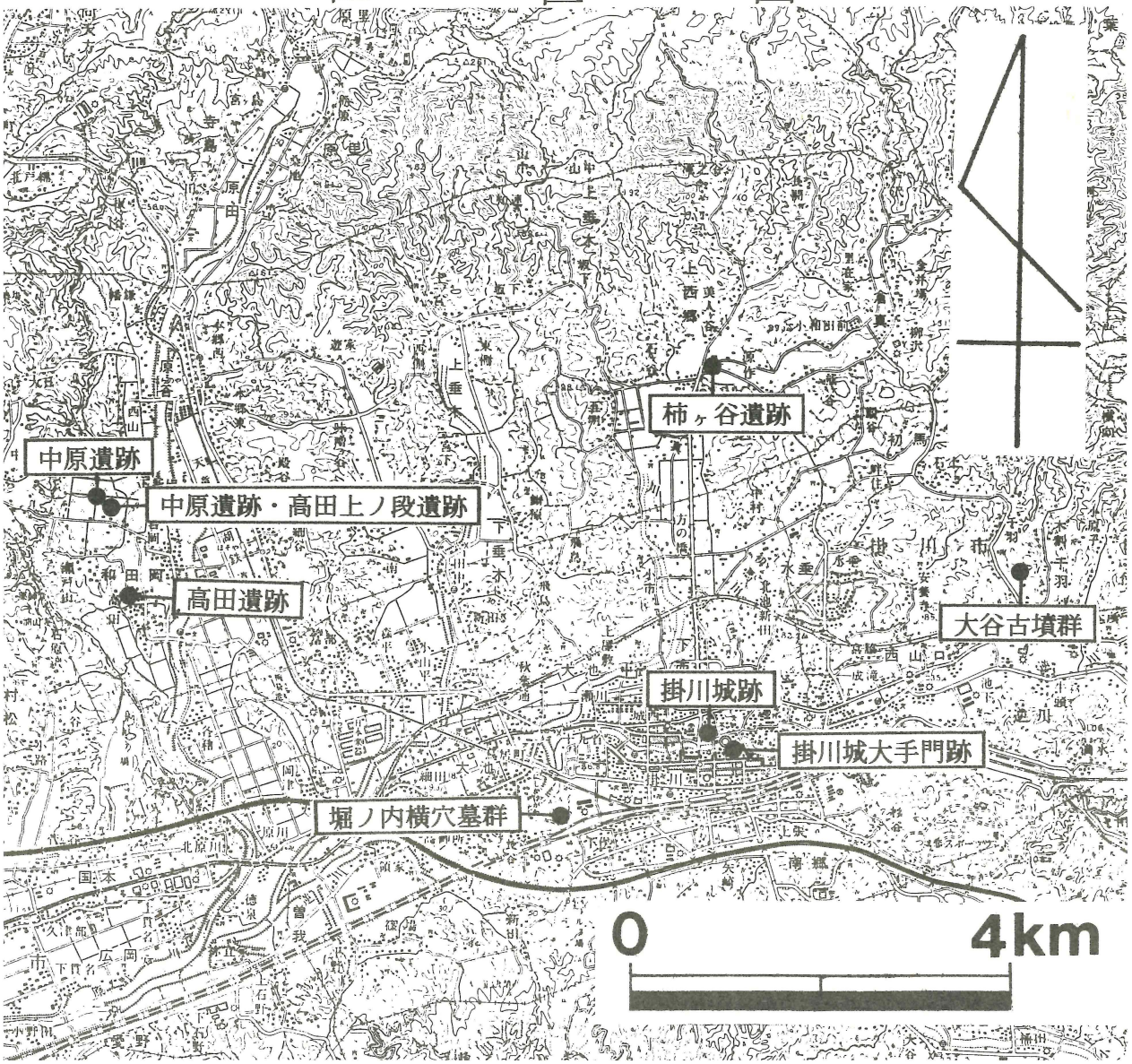
このため『文化財保護法』で、遺跡のある場所で土木・建築工事や茶園の改植などをする場合、事前に文化庁に届出をすることが義務づけられています。

工事のため申請したが、遺跡の調査で完成が遅れてしまった ―――― ということのないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、市内にある遺跡の様子を示した『掛川市遺跡地図』があります。次の場所に用意してありますので、計画前にぜひご確認ください。

・掛川市教育委員会　社会教育課文化係　ＴＥＬ（２４）７７７３
　　（２４）６２６８
・掛川市立図書館
・掛川市役所内：良質地域課（２階）

位　置　図



掛川市「考古の日」

明和９年５月２１日（陰暦）現在の長谷字小出ヶ谷地区において、銅鐸一口が発見され掛川藩に届出されました。これが現在の文化財保護法の遺物の発見届と同じことで、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と、これらを保護・保存しようとする意識の向上を願い、毎年５月２１日を掛川市「考古の日」として設定しました。

文化財愛護シンボルマーク

※パンフレットの無断転写を禁じます。